

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1270300807
法人名	株式会社 ニチハイ
事業所名	グループホーム サロンドグリーン長沼原
所在地	千葉県千葉市稲毛区長沼原町161-1 (電 話) 043-286-2015

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉縣市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2008/3/18

【情報提供票より】(20年 3月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 8.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有() 円) 〇 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇 有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	〇 有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要(3月 3日現在)

利用者人数		18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1		10	名	要介護2	5	名
要介護3		2	名	要介護4	1	名
要介護5		0	名	要支援2	0	名
年齢	平均	81 歳	最低	57 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ちぐさ会クリニック、海星会
---------	---------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と畑の広がる静かな環境の中に「グループホーム サロンドグリーン長沼原」がある。広い駐車場を備え、平屋建ての新しい建物は全面バリアフリーで広くゆったりとしている。施設内は大きな窓から陽が差し込みとても明るい。共有スペースから広く、天然芝に囲まれた庭を見渡すことができ、ウッドデッキも設置され、庭や畑に自由に出入りできる開放的な雰囲気である。また、外部の方々が訪れやすい雰囲気作りがなされており、家族、近隣住民、ボランティアの来訪が多く、職員や入居者が生き生きとした生活を送っている。2つのユニットの入居者は行き来をして交流を持ち、一緒に趣味やレクリエーションを楽しんでいる。近隣の保育園児が散歩の途中で施設を訪れ、入居者の心を和ませている。職員は、全員で話し合い作り上げた理念を基に、一丸となって心のこもったサービスの提供に努め、「人としてあるべき姿」を大切に、入居者と共にいつも笑顔のあるホームを目指し一人ひとりに合った支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価の為、改善項目なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は管理者が作成したが、職員会議で外部評価の意義を説明し職員全員の理解を得ている。改善すべき点はミーティングにて検討した上で速やかに改善し、サービス向上に努めたいと考えている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	民生委員・支援センター相談員・家族代表・施設関係者を構成員として、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議にて、活動状況等の報告を行い、施設の地域理解の促進を図っている。また、情報交換や意見交換を行うと共に、質問を受け付け、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目	家族の面会時や手紙にて入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。また、生活状況に変化のあった場合や受診した場合には随時、報告を行っている。他にも、個別に連絡ノートを作成しており、職員及び家族が記入を行い、情報・意見を交換している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、回覧板に事業所の紹介や情報を載せ施設理解の促進を図っている。地域住民の介護相談も受け付けている。地域の祭りへの参加や施設の祭りへの招待等で交流を深めている。また、地域の保育園の園児の来訪や多彩なボランティアの受け入れ等も行い、積極的に地域との交流を図っている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたらしさを守ります」「出来る事を大切にします」「いつも笑顔のあるホームを目指します」を主眼とした独自の理念を、職員全員作成しており、理念に基づいたサービスの取り組みに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し周知していると共に、ミーティングで確認を行い、職員全員で理念を共有し理解している。理念を常に意識しながら、心のこもったサービス提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板に事業所の紹介や情報を載せ施設理解の促進を図っている。地域住民の介護相談も受け付けている。地域の祭りへの参加や施設の祭りへの招待等で交流を深めている。また、地域の保育園の園児の来訪や多彩なボランティアの受け入れ等も行い、積極的に地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成したが、職員会議で外部評価の意義を説明し職員全員の理解を得ている。改善すべき点はミーティングにて検討した上で速やかに改善し、サービス向上に努めたいと考えている。	○	職員全員が自己評価の作成に関わる事で、気付きを大切にしながら、更なるサービスの質の向上に繋げて頂く事を望みます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・支援センター相談員・家族代表・施設関係者を構成員として、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議にて、活動状況等の報告を行い、施設の地域理解の促進を図っている。また、情報交換や意見交換を行うと共に、質問を受け付け、サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

【千葉県】グループホーム サロンドグリーン長沼原

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が地域のグループホーム連絡会の役員を務めている。連絡会を通じて、市職員と定期的に連絡を取り情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や手紙にて入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。また、生活状況に変化があった場合や受診した場合には随時、報告を行っている。他にも、個別に連絡ノートを作成しており、職員及び家族が記入を行い、情報・意見を交換している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していると共に、家族の面会時に意見・要望等を確認している。挙げた意見に対しては、ミーティングで検討し、適切な対応を図っている。また、意見に対する検討結果を玄関に掲示すると共に、家族に直接報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに職員の顔写真と名前を大きく掲示し、入居者や家族に解りやすく紹介している。また、ユニット間の異動を最小限に抑え、入居者の安定した生活に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、積極的に参加をしている。研修参加後は報告書を作成していると共に、資料の回覧や報告会を通じて情報を共有している。グループホーム連絡会でも研修会が開催され、積極的に参加している。また、心療内科医や歯科医による内部講習会も行われ、職員の育成、サービスの向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長がグループホーム連絡会の役員を務めており、連絡会を通じて、情報交換や意見交換を積極的に行っている。また、他施設の見学を行い、優れた点を取り入れながらサービスの質の向上に努めている。今後は職員や入居者が他施設と交流できる機会を検討中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時、見学を実施していると共に、希望者には体験入居も実施しており、施設の雰囲気に慣れてもらうよう対応している。入居後は、入居者の不安な気持ちを十分に理解し、話をする機会を多く持つ事で、できるだけ早く施設に馴染んでもらうように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	希望や能力に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者に対して感謝の気持ちや尊敬を忘れる事なく、人生経験や優しさ等を教わっている。また、職員が入居者に相談に乗ってもらえる事もあり、共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談を通じて、家族からの本人の意向や生活状況等を確認している。また、日々の生活の中で本人の意向を確認し、ミーティング等で職員に周知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、職員全員でミーティングにて話し合いを行い、計画作成担当者が作成を行っている。また、本人の意向や家族の要望を確認した上で介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行っていると共に、生活状況に変化があった場合や必要であると判断された場合はその都度見直しを行っている。見直しにおいては、職員全員でミーティングにて話し合いを行い、計画作成担当者が作成を行っている。また、本人の意向や家族の要望を確認した上で介護計画の見直しに反映させている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の入院時は、職員がお見舞いに行き、医師と情報交換を行い、連携しながらできるだけ早い退院を支援している。行きつけの美容院や囲碁教室等、入居者の希望に応じて付添いを支援している。また、地域の保育園と相互に行き来する関係を築き、世代間交流を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっている。また、定期的に協力病院や歯科の往診が実施されていると共に、必要があれば随時、医師への相談や往診にて適切な医療支援を行っている。受診や往診の内容については、その都度家族に報告を行っている。希望により医師と家族が相談できる機会も設けている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においての方針は掲げていないが、重度化した場合は、家族と連絡や相談を行った上で、意向を把握し、ミーティング等を通じて職員全員で情報を共有している。また、医師と連携を図り、往診の回数を増やす等の対応をし、できるだけ本人や家族の意向に沿った終末期を支援している。	○	重度化や終末期に向けた事業所の方針を確立した上で明文化し、最大限の支援が出来る体制作りをしていただく事を期待します。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報においては、事務所内に保管し、個人情報の保護に努めている。申し送りの仕方に細心の注意を払っていると共に、接遇マナーを徹底しており、入居者のプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を定めているが、一人ひとりのペースや希望を優先し、自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、日々の会話や行動により希望を確認しており、我慢のないその人らしい生活を支援する事を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の準備、片付け等を希望に応じて共同で行っている。配食サービスを利用しており、栄養バランスを考えた献立作りと食材の手配を依頼している。月2回、自由メニューの日を設け、入居者の希望を取り入れた上で、共同で調理を行っている。また、定期的な外食会も企画・実施し、食の楽しみを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く設計されており、暖房も完備されている。入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数等柔軟に対応している。また、足浴や清拭も実施し、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否に関しては、声掛け等を工夫し、適切な対応を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。定期的に音楽講師を招き、歌のレッスンを行い、外部の音楽発表会に参加している。また、ボランティアの来訪も多く、フラダンス、大正琴、工作等が行われ、入居者は自由に参加している。地域の保育園の来訪を通じて世代間交流を行う等、入居者の楽しみ、気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩や買い物等の外出を支援している。また、季節ごとに外出会・外食会を企画・実施し、初詣や夏祭り等に出掛け、入居者に戸外での楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関やテラスの出入り口の施錠は行っておらず、入居者の自由な生活を支援している。入居者が外出の際は職員が声掛け、見守り等で対応している。居室は入居者からの希望で鍵が設置され、個人のプライバシーが守られている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時や災害時の対応・手順マニュアルを作成していると共に、消防計画を作成し、定期的に避難訓練と消防訓練を実施している。	○	近隣住民との緊急時における協力体制を構築する事により、より万全な緊急・災害時の対策を講じる事を望みます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や能力に応じた食事提供がなされていると共に、食事・水分の摂取量をきちんと記録している。水分の摂取量が少ない場合においては、栄養ゼリーやジュース等で補っている。また、食事の摂取量が少ない場合においては、好みの物や間食等で対応し、必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーとなっており、玄関、浴室、トイレ等、全てのスペースが広く取られている。施設内は大きな窓や天窓により日当たりが良く明るい。ウッドデッキが設置され、天気の良い日は日向ぼっこやお茶のみができるようになっている。広い庭には天然芝が広がり、中心にもみの木が立っている。また、廊下には入居者の作品や行事の写真が掲示されていると共に、職員と入居者が共同で季節の飾り付けを行い、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能であると共に、希望によっては畳を敷く事も可能であり、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。全居室にエアコンが設置されており、職員により、適切な空調管理がなされている。また、ナースコールも設置されており、入居者の安全に配慮している。		